



SALVATIONIST

とぎのこえ

2025年標語「信仰の遺産の上に築く」(テモテへの手紙二 1章14節)



初冬号

広報版
2025

November-December
No.2897

2025 年 救世軍標語

「信仰の遺産の上に築く」

「あなたにゆだねられている良いものを、
わたしたちの内に住まわれる聖霊によって
守りなさい。」

テモテへの手紙二 1 章 14 節

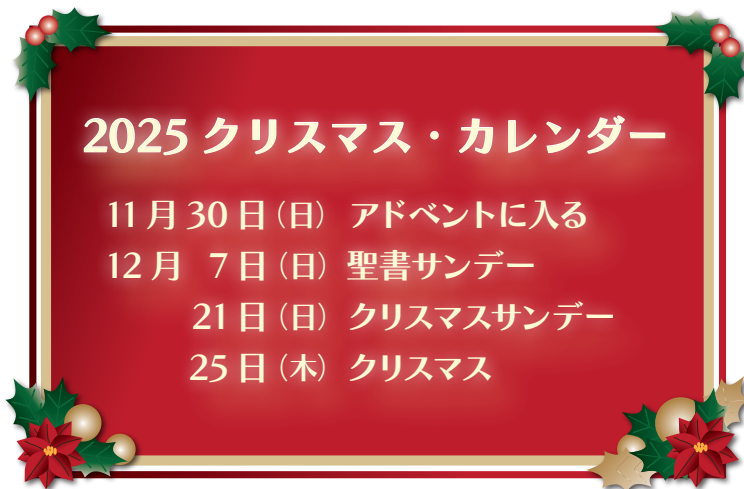
ときのこえ SALVATIONIST

初冬号 広報版

2025 November – December
NO.2897

もくじ

■メッセージ	
狭い道と広い道	
少佐 勝寛 隆	3
■〔連載〕聖潔の流れに立つ 第 41 回	
ジョン・ウェスレーの聖潔	
一心うちに燃えて	
少佐 丸畑 幸夫	4
■集会報告	
軍国ミュージック・キャンプ 2025	5
Design for Life25	6
■証言	
ラーランザウイ候補生	6
■各地のニュース !!	
万国書記官の来日	
ジャパン・スタッフ・ソングスターズ、 名古屋小隊	7
■YP (青少年部)・ファミリーニュース	
軍国ユース・キャンプ 2025	8
関東東北連隊、北海道連隊	9
横浜小隊、名古屋小隊	10
■各地のニュース !!	
仙台小隊、浪江小隊、熊谷小隊、函館小 隊	11
社会福祉部、八幡小隊	12
■〈連載・第 35 回〉	
神の呼びかけ～神の民となるために～ 聖礼典について	13
■救世軍見解表明	
社会道徳に対する救世軍の立場	
第 18 回「救世軍と国家」(2)	
第 19 回「権力の行使」(1)	14
■召天記事、救世軍公報	
■各地のニュース !!	
ジャパン・スタッフ・バンド	15
■全国大会案内	16



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりと

- ☐ 『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1 年分 1140 円。税込、送料別)
- ☐ キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名

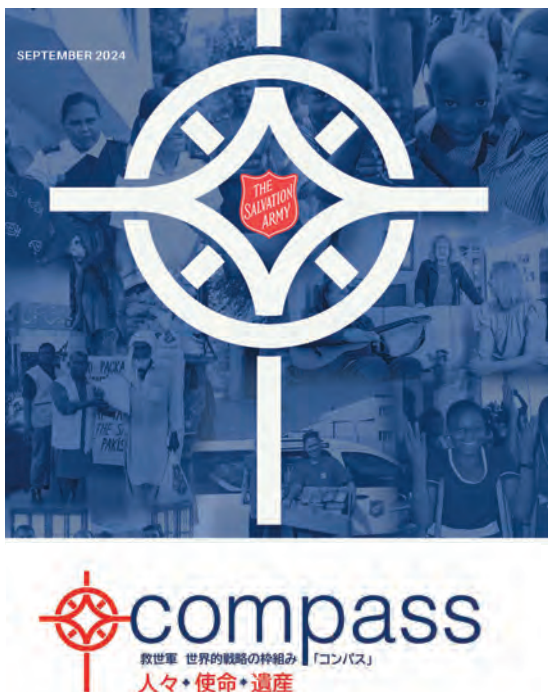
ご住所

表紙の写真：東京東海道連隊キッズ
キャンプの会場で、ラーランザウイ
候補生と京橋小隊士官平本宣広少佐

〈メッセージ〉 八月十日救世軍YouTubeメッセージより

狭い道と広い道

少佐 勝篭 隆



救世軍の世界的戦略の指針「コンパス」は2024年9月に発表されました。救世軍の使命と奉仕に将来の方向性を与える枠組みで、「人々 (people)、使命 (mission)、遺産 (legacy)」を重点項目としています。『ときのこえ』第2879号 (2024年初冬号) 14、15ページに掲載。

人生もしばしば道にたえられず。大勢が進む広い道ではなく、あえて人が少ない狭い道、あるいは人とは異なる方向に踏み出すことで、大切なものに出会うことがあります。今回のメッセージは、その「人生の道」についてです。

イエスの有名な山上の説教には「狭い道と広い道」の教えがあります。

「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」(マタイ7:13-14)

イエスは、人生には二つの道があるという事実を示しています。狭い門から入る細い道は命に通じ、広い門から入る広い道は滅びに向かう。しかも、多くの人は広い道を選び、細い道を見いだす者はわずかだという厳しい現実です。

広い道とは、多数が選ぶ「生きやすい道」です。世間の流れや周囲の価値観に合わせるの容易で、安心で、考える負担も少ない。日本社会には「みんながそうしているから」という同調の論理が根強くあります。しかし聖書は、世の流れに従う生き方を退けます。なぜなら聖書はキリストに従う生き方を教えているからです。

現代は、スマホとインターネットがもたらす膨大な情報に満ち、基準や価値観が次々と更新されます。真実を見極めるのは容易ではなく、気づけば世間や周囲の意見に流されてしまう。イエスは、砂の上に家を建てる比喻で、移ろいやすい基盤の危うさを指摘されました。私自身、物事を斜めに見る癖があり、皆が「正しい」と言う事柄に「本当にそうなのだろうか」と疑

いを差し挟むことがあります。しかし一つ確かなのは、周囲の価値観に流され続けるなら、神の国の命には至らないということです。神の国は、一貫した神の御言葉の道の先にあるからです。

「狭い門から入りなさい。」そこにこそ真理と命がある——狭い門とは、キリストの十字架と復活の道です。周囲がどうであれ、福音を軸にその道を信じて歩むところに、真の命が与えられます。では、なぜ救いの道は「狭い門・細い道」と表現されるのでしょうか。本来、神はすべての人を招いておられますから、門は広く開かれています。真の

それでも狭く感じられるのは、人間側の都合——人目や評判への恐れ、生活が変わる不安——が、私たち自身に門を狭めさせてしまうからです。イエスは人の心を知り、その弱さを見据えた上で「狭き門」と語られたのでしよう。

ではありません。けれども、その日常の中で神様との交わりをもつ選択の積み重ねこそが、命に至る「狭き道」となります。私たちは弱く、つい安易な方へ流れがちですが、御言葉と祈りだけがその流れを正し、歩みを命へと向け直してくれます。イエスは「わたしは道であり、真理であり、命である」と言われました。キリストご自身が道であり、真理であり、命なのです。

聖書はしばしば逆説で語ります。世で「広い」と見える道は、実は行き先がなく、滅びへ通じる。反対に、世で「狭い」と見える道こそ、神の祝福に満ちた命の大道に通じています。真のクリスチャンとして生きる

とは、狭き門・狭き道を選び取ることです。キリストが先に歩まれた十字架と復活の道を見上げながら、私たちは今日も選びます。コンパスが方位を示すように、神の御言葉は歩むべき方向を示します。移ろいやすい時代のただ中で、私たちの針路が福音に正しく合致しますように。

お一人おひとりの歩みに、主の豊かな祝福がありますように祈ります。

《連載》 聖潔の流れに立つ 第四十一回

ジョン・ウエスレーの聖潔 ―心うちに燃えて―

少佐 丸畑 幸夫

（承前）この完全は、瞬間に即時に与えられるが、それだけでなく恩寵は永遠に成長し続けるものでもある。ウエスレーは生まれ変わりの瞬時的な性格と聖潔の漸次的な過程を、自らの信仰体験を通して、心のただ中にあると理解していた。そして、キリストの姿にまで成長するには、漸次的成長が必要であると言ひ、「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」（マタイ5・48）とキリストが言っていることを強調している。完全な人間、それは心がキリストの心と同じであり、心の根底においてキリストとの一致が見られる。時には神の霊が私たちに恵みとしての「禁欲」を促すこともあるが、これも神の賜物の一つである。

ウエスレーの聖潔思想は、隣人を愛することと深く結びついている。隣人への愛は神を愛するという最高善を実現するための手段であり、また自己を愛する最善の道でもある。私たちに与えられている律法は、隣人への愛の律法であり、モーセの言う儀式的なものではない。これは、聖霊の導きにその生活を任せることによって与えられる、心が燃える「愛の賜物」である。

ウエスレーは最期の時を迎えた。苦痛を通して潔められる経験をしながらかく息もなく、嘆きもなく天に静かに向かった。

彼は死の床にあつて同僚たちに言った。「あなたがたは英国教会を離れたり、別の教会を建ててはならない。いつまでも英国教会員でありなさい」と。

ウエスレーにとって生きることは嬉しいことであり、肉体の死によって魂がひたすら天上の愛へ向かうことは佳いことであつた。

ウエスレーは幸いな人生の結論をこのように語っている。「最も良いことは、神が私たちと共におられることであらう」（The best of all is, God is with us!）と……。これは、一七九一年三月二日（八十八歳）、彼の臨終の時の言葉である。

それとともに、ウエスレーは臨終にあたり三度も繰り返した言葉は、「私は罪人のかしらである。しかもイエスは私のために死んでくださった」であつた。私たちの罪が神によって消し去られるまでは、私たちは永遠の死に値する存在なのである。神が私たちを義としてくださる以前になされたすべての業は良いものではない。

聖王と称されたダビデ自身も、「罪人のかしら」であつたと自認している。ウエスレーも自分の弱さをよく知っていた。

神は、神の救いの憐れみが必要とする者を御子によって救ってくださるのである。神は御子を感じる人を憐れんでくださる。

「あなたがたは恵みにより、信仰を通して救われたのです。それはあなたがたの力によるのではなく神の賜物です。行いによるものではありません。それは誰も誇ることがないためです。私たちは神の作品であつて、神が前もって準備してくださった善い行いのために、キリスト・イエスにあつて造られたからです。それは私たちが善い行いをして歩むためです。」（エフェソ2・8）10聖書協会共同訳）これが神の賜物である。

俗人ヤコブも、聖徒イスラエルと神に呼ばれるようになったが、ヤコブもイスラエルもひとりの人間である。俗人ウエスレーは聖徒とも呼ばれるが、同じひとりの人間である。

（終）

（一）四参考文献

『基督教史』 柏井園
『キリストに倣いて』 トマス・ア・ケンピス
『厳肅なる召命』 ウィリアム・ロー
『キリスト教思想の流れ』 高尾利数

（五）八参考文献

『基督教史』 柏井園
『キリスト教思想の流れ』 高尾利数
『ウエスレー伝』 野呂芳男
『救世軍のルーツ探訪』 救世軍本営
『ヒルティ伝』 A・シュトゥット
『ドイツ敬虔主義』 M・シュミット

（九）十参考文献

『キリスト教古典叢書』 ウエスレー編
『キリスト教の歴史』 齊藤正彦
『ジョン・ウエスレー伝』 田中亀之助
『世界キリスト教史物語』 教文館
『ウエスレーン神学事典』 福音文書刊行会
『幸福論』 ヒルティ

（十一）参考文献

『ウエスレーの神学』 新教新書
『基督教史』 若月麻須美
『評伝ウエスレー』 気賀重躬
『ウエスレー篇（キリスト教古典叢書）』 新教出版社
『ウィリアム・ジェイムズの宗教思想』 高木きよ子
『ウエスレー著作集6神学論文』 新教出版社
『幸福論』 ヒルティ

（十二）参考文献

『ウエスレー兄弟』 M・エドワーズ
『ジョン・ウエスレー伝』 田中亀之助
『人と思想』 野呂芳男
『キリスト教の生涯と神学』 野呂芳男
『キリスト教の歴史』 新教出版社
『戦う使徒ウエスレー』 福音文書刊行会
『キリスト教概論』 聖学院大学出版会
（エピソード 参考文献）

『ウエスレーン神学事典』 福音文書刊行会
『ウエスレー神学の源流』 福音文書刊行会
『キリスト教の歴史』 齊藤正彦
『キリスト教名案内』 日本キリスト教団出版局
『ウエスレーの神学と思想』 野呂芳男
『ウエスレー篇（キリスト教古典叢書）』 新教出版社

※編集部より「ジョン・ウエスレーの聖潔」は今回で終わります。

集会 報告

軍国ミュージック・キャンプ2025

8月10日(日)～12日(火)

会場:杉並小隊・総合センター及び別館(アネックス)、山室軍平カレッジ(YGC)

「喜びをもって主にささげよう!」をテーマに掲げ、各地から幅広い世代が一堂に集いました。(ブラスバンド12人、タンバリン11人、ワーシップバンド14人、付添家族6人、講師16人、スタッフ9人、ボランティアスタッフ1人、総勢69人)

1日目は15時から開会集会在もたれ、ワーシップバンド講師の中山有太師(ギター)、原田恵氏(キーボード)、倉持守職員(カホン)、堀切利雄職員(ベース)のリードによって賛美を献げ、中山師は詩編102:19、コリント1:28～29、詩編20:8より、「主が喜ばれる賛美」についてメッセージをしました。自分の技術や奉仕を誇るのではなく、主を誇るためにこのキャンプを通して練習を積み、主を更に賛美するために用いられることを願って、一同それぞれのクラスに分かれてレッスンに取り組みました。夕食は、アネックスで新たに立ち上げられた「スーププロジェクト」のご協力によって、夏祭り風のメニューを楽しみながら、交流の時がもたれました。

2日目は「聴くドラマ聖書」を用いたディボーションで一日が始まりました。午前・午後にそれぞれのレッスンがあり、その合間には中山師による「礼拝者としてどう生きるか」をテーマに学びの時間がもたれました。ヨハネ4:23～24の御言葉を中心に、主は霊と真理をもって主を礼拝する者を求めておられることをご自身の体験を通して語られました。

合唱は短い時間でしたが、「こころをさだめて(O happy day)」に挑戦しました。並行して、子どもたちはレクリエーションで思いっきり身体を動かした後、大会の聖別会で賛美する「すべてが新しい」を練習しました。

3日目は午前中が最後のレッスンとなり、それぞれ精いっぱい練習に取り組みました。14時からの閉会集会是伝道事業部長石川和男少佐の開会祈祷、ブラスバンド講師の伴奏で「主われにさきだち」を賛美した後、クラスごとに各講師がレッスンの様子を短く報告し、それぞれに練習の成果を携え力いっぱい賛美を献げました。

タンバリン初心者クラスは、今回初めて手にしたタンバリンで「主われを愛す」に合わせて操練をしました。また、初級クラスは全国大会の昼食会で賛美する「For Christ Alone」の曲調に合わせた振り付けを完成させ、「ただキリストのために」という思いを込めて操練しました。

ブラスバンドの初級クラスは、初めて音が出るようになった参加者も仲間と共に「メリーさんの羊」を一曲通して演奏することに挑戦し、音を合わせる楽しさを味わうことができました。中級クラスは、講師と共に難曲「March—



①ブラスバンド中級クラス練習 ②③ワーシップクラス練習 ④メッセージする中山有太師 ⑤タンバリン初心者クラス発表 ⑥ブラスバンド初心者クラス発表 ⑦タンバリン初級クラス発表 ⑧キッズ賛美



エンブレムオブジ
Army」に挑戦し、今できる最高の演奏をもって主を賛美しました。



ワーシップクラスは、初心者から中級者まで全員で、それぞれの楽器を高壇いっばいに並べ、「詩篇100」を力強く賛美しました。キッズ賛美は、「すべてが新しい」を会衆も一緒に賛美の輪に加わって歌いました。合唱は、ドラムのリズムに乗って神様に救われた喜びを賛美しました。

中山師は、3回のメッセージの締めくくりとして、詩編27:14より「雄々しくあれ」と題し、自分の弱さを認め主を求め待ち望むなら、砕かれた心には主は豊かに臨まれ、励まし勇気を与えてくださる、と力強く語りました。最後はワーシップ講師の賛美リードで主に向かって高らかに賛美をして会を閉じました。(出席者80名)

それぞれの小隊に賛美が満ち溢れ、神様のものに導かれる方が起こされますように、そのために音楽が豊かに用いられますように、主のお導きと祝福をお祈りいたします。(音楽部報)

集会報告

デザインフォーライフ
Design for Life 25

9 月 13 日 (土) ~ 15 日 (月・祝) 聖心会裾野マリア修道院 (黙想の家)

今年は講師に清瀬小隊士官 高島恵子少佐、証しゲストに桐生小隊 大里忠弘曹長、通訳に山谷真少佐を迎え、静岡県裾野市の会場で計 9 人でおこなわれました。

各集会は、テーマ「神様は喜びの道を備えてくださった」(使徒言行録 2 章 25 ~ 28 節)を中心にもたれました。

1 日目夜の開会礼拝は、士官志願者部長 勝篋実香少佐が導き、テーマと該当聖句から、「神様は喜びの源であるイエス様を私たちに与え、主の御前にいる喜びと共に、主との関係の中で喜びを見いだしていく歩みを与えてくださった。神様が私たちに備えてくださっている最も良いご計画を信じ、実現させるために、イエス様に近づき、御心を探り求めたい」とメッセージをしました。その後、霊的生活成長部長 ダニエル・テンプルマン・トゥエルズ少佐が聖書の学び①として、使徒 2 : 25 ~ 28 と詩編 16 : 8 ~ 11 を対比しながら、「神様はいつも私たちと共におられる」というテーマで導きました。

2 日目の朝は、デボーションの時を大里忠弘曹長が導き、創世記 1 : 1 ~ 3 の御言葉を味わいながら各自黙想の時をもちました。午前は、高島恵子少佐より、「黙想の恵みを味わう」というテーマで黙想についてのレクチャーを受けました。そして参加者はそれぞれに十字架の道行を散策しながら黙想の時をもちました。午後はレクリエーションとして、美術館や黙想の家で過ごし、神様と向き合う穏やかな時間を楽しみました。夜には賛美の後、大里忠弘曹長が、前職の教員(小学校長)から現在の佐野保育園長として、また桐生小隊での神様の不思議な御手の働きとその恵みを証しました。その後、聖書の学び②として、ダニエ

ル・テンプルマン・トゥエルズ少佐は、使徒 2 : 25 ~ 28 と詩編 16 : 8 ~ 11、使徒 13 : 34 ~ 37 を対比したテキストから、「人生の新しい道」について学びの時を導きました。

3 日目は午前中に閉会礼拝をおこないました。勝篋実香少佐の司会で進められ、参加者それぞれが 3 日間を通して神様と向き合い、自身の信仰を見つめ、神様に示されたこと、気づかされたこと、悔い改めたこと、など豊かな恵みを証しました。その後、ダニエル・テンプルマン・トゥエルズ少佐はルカ 3 : 3 ~ 6 より、「ヨハネはイエスのために道備えをした。私たちは主のためにどうしたら道を広げることができるだろうか。あなたの人生において妨げとなっているもの、片付けるべきものは何だろうか。今回、主から示され、受け取ったことをもう一度思い起こし、帰った後も祈り、考え、掘り下げ続けてほしい」とメッセージをしました。

今回、祈りをもって参加者を送り出してくださった関係者の皆様に感謝いたします。(士官志願者部報)



証言

夏期訓練の恵み

候補生 ラーランザウイ

ハレルヤ！ 私は最近、名古屋小隊での夏期訓練を終えました。今日は、神のすばらしい真実さと、その期間に私が体験した祝福について分かち合いたいと思います。

この夏期訓練に入る時、私は興奮、緊張、好奇心など、様々な感情を抱いていました。何が待っているのかわからなかったけれど、神が私を用い、教えてくださるように祈りました。そして本当に、私の想像をはるかに超えて、神は働いてくださいました。

一番の祝福の一つは、名古屋小隊の皆様から受けた温かい歓迎と愛でした。最初の日曜日からは、私はその共同体の一員のように感じました。言語や文化の違いで戸惑うことがあっても、皆様の支えと優しさによって、奉仕がしやすくなりました。私は様々な奉仕に関わる機会を与えられました。説教をしたり、訪問したり、小隊のプログラムに参加したり、小隊の方々と時間を過ごしたりと、どの活動を通して、神の御霊が名古屋小隊で働いておられること、そして福音が静かに、また時に力強く人々の人生を変えていることを見ることができました。

霊的にも、この訓練は私にとって、精錬と新たな気付きの時でした。自分が本当に役立っているのか、十分にできているのかと疑う瞬間もありました。しかし、そうした静かな時間の中で、神は「完璧よりも従順であることが大切であり、成長と実のなる働きは神が成してくださる」と思い起こさせてく

だきました。

また、謙遜と仕える心の大切さも学びました。時には椅子を並べたり、行事の後片付けをしたりすることもありました。でも、そうした小さな行動の中にも、キリストに仕えているという喜びと充実感を見いだしました。

何よりも、この夏期訓練は私の召しを強くしてくれました。「神を愛し、人を愛するためにどこへでも行く」と決心した理由を、もう一度、思い出させてくれたのです。また、日本への思いがさらに深まり、神の民を導く牧者とは何か、その姿がより明確になりました。

私は思いだけでなく、多くの学び、友情、そして信仰の深まりをもち帰りました。名古屋小隊の士官と皆様、そして何よりも神に、このすばらしい貴重な機会を与えてくださったことを感謝します。

神が私たち一人ひとりを導き、祝福し続けてくださいますように。私たちがその御業のために備えられていきま



7 月 13 日、連隊リーダー出陣の賛美集会でタンバリン操練をしました

NEWS!!
NEWS!!万国書記官の
来日

各地のニュース!!

9月22日(月)から29日(月)にかけて、南太平洋及び東アジア(SPEA)地域万国書記官ユサク・タンパイ中将与ウィディアワティ・タンパイ中將がサポート・ビジットのために来日しました。夫妻は東京を拠点に、救世軍の士官や職員との交わりを重ね、日本軍国の働きを励まされました。

到着翌日には清瀬地区を訪れ、清瀬病院、介護医療院シャロン、清瀬小隊、救護施設自省館、特別養護老人ホーム恵泉ホーム、軽費老人ホームいずみを視察しました。現場で働く外国人職員との懇談では、国際的な奉仕の広がりに関心を示されました。その後も杉並地区



特別養護老人ホーム恵みの家を訪問



広島 平和記念公園で

や広島県呉市を訪問し、呉保育所、児童養護施設愛光園、児童家庭支援センター明日葉、呉小隊の戦友が経営する高齢者施設を巡り、献身的に働くスタッフへの感謝を表しました。施設長、職員、小隊士官との交流は、万国的な救世軍のつながりを実感する時となりました。

訪問のハイライトの一つは、9月28日(日)に江東小隊でおこなわれた聖別会でした。小隊士官メリッサ・テンプルマン-トゥエルズ少佐の司会で進められ、ウィディアワティ中將が勧話をし、続いてユサク中將がイザヤ54:1~5とヨシュア3:1~6から「川を渡り進むために聖別される」と題してメッセージをしました。

「約束の地に進もうとするイスラエルの民の前には、氾濫するヨルダン川、エリコの城壁、そして巨人たちが立ちまわっていた。しかし主はその力強い御業によって進むべき道を示された。同じように、人生にもそれぞれが越えるべき川があり、その川を渡る秘訣は『聖別』にある。自らの人生を神の御手にゆだね、全面的に導きを委ねる時、神は新しい道を開かれる」と力強く勧めました。さらに聖別の具体的な歩みとして三点が示されました。第一に、キリストの贖いによる全き変革を受けること。第二に、神の言葉を握り、生活と小隊の中心に据えること。第三に、礼拝と奉仕を結びつけ、「心は神に 手は人に」というモットーを実際に生きることです。

最後にユサク中將は、「信仰を強め、神の言葉に生き、礼拝を通して隣人に仕える時、私たちの天幕は大きく広げられ、さらに多くの人々を包み込むことができる」と結びました。集った人々は、自らの人生の「川」を越えるために新たな決意を抱く、恵み豊かな時を与えられました。

ジャパン・スタッフ・ソングスターズ
(JSS)

●合宿、長野分隊への訪問

8月22日(金)~24日(日)、山谷昌子少佐をゲストに迎え、昨年に続き長野県白馬にて合宿をおこないました。



24日(日)は長野分隊に遠征し、戦友方と聖別会を守り、JSSが賛美の奉仕をしました。山谷昌子少佐が司会と、「聖なる者とされる」(ペトロ1:1~2)と題しメッセージをしました。昼食会では、1年ぶりにお会いできた戦友方と分かち合いのひと時をもたせていただき、感謝しつつ帰路につきました。(聖別会参加者17人)



名古屋小隊 ●候補生を夏期訓練に迎えて

名古屋小隊では6月29日(日)から8月20日(水)まで、『変革の宣言者』の学年のラーランザウイ候補生を夏期訓練に迎え、共に恵みの夏を過ごしました。7月6日(日)は歓迎サンデーとして日曜学校合同ファミリー聖別会をおこないました。期間中、連隊リーダーを迎えての聖別会と賛美集会、ユースの集い、夏期学校がおこなわれ、候補生は証言やメッセージをしたり、賛美やゲームを導いたり、タンバリン、バンドと積極的に活動し、連隊や軍国の夏のキャンプにも参加しました。



歓迎サンデーで

Y P (青少年部)・ファミリーニュース

軍国ユース・キャンプ2025

8月17日(日)～20日(水)、会場：日光オリーブの里(栃木県日光市)

「イエス様と生きる」のテーマのもと、開催されました。突然の雷雨もありましたが、安全が守られ、デボーション、学び、共に祈る時をもち、ゲーム等をして、イエス様との関係、仲間との関係を深める時となりました。

1日目の夕方に、全国各地から会場となる日光オリーブの里に集合しました。夕食の後、ウェルカムナイトでは、眞鍋嗣道中尉(関東東北連隊青少年部書記)がゲームを導き、樋口潔大尉(東京東海道連隊青少年部書記)をリーダーとする賛美チームによって、みんなで思いっきり賛美をしました。眞鍋恵中尉(関東東北連隊青少年部書記)がルカ10:38～42からメッセージをしました。「マルタのように、私たちの日常はいろいろなことに目がいき、気を張るけれども、マリアのようにイエス様の足元にひれ伏し、イエス様につながっていく者でありたい」とユースに語りかけました。

2日目、朝食前、「聴くドラマ聖書」から御言葉を聞き、グループごとに分かち合い、祈り合う時をもちました。午前中は、グループに分かれて『人生を導く5つの目的』(リック・ウォレン著)の第1日目を読み、それぞれのグループで分かち合いの時をもちました。午後は、ウォーターバトルをチーム対抗戦でおこないました。また、ウォーターバトル後に、テントサウナをし、自然の恵みにあずかりました。夕食はバーベキューをし、参加者の交わりが深まりました。

夜の賛美集会は、倉持守師(本営書記長官部・コミュニケーション部)が、ローマ10:13より主の名の権威について、「イエス様(インマヌエル)と呼ぶ時、そこに共にいてくださるということ。イエス様の名前を呼ばないでいる時は“自分の思い”が優先してしまう。イエス様を信じ、イエス様の名前を呼ぶことができるように」とメッセージをしました。

3日目、朝食前、「聴くドラマ聖書」から御言葉を聞き、2日目と同じグループに分かれて、分かち合い、祈り合う時をもちました。午前中は、グループに分かれて『人生を導く5つの目的』の第2日目を読みました。「私は偶然に存在しているのではなく、生まれる前から神様の配慮の中にあっただ」ということを通して、「イ

エス様と生きる」ということを自分事として捉えることができるように学びの時をもちました。午後は、日光オリーブの里海賊マネージャー「キャプテンヤス」こと青木靖牧師のご指導のもと、川でのアクティビティを楽しみました。夜のキャンプファイヤーは、眞鍋嗣道中尉が、マルコ9:23～24より「キャン

プのデボーションで、自分にとって神様との交わりは生きていくための生命線なんだと感じた。イエス様は私たちと共に歩んでいきたいと思っておられる。完璧な信仰でなくていいから、神様との交わりだけは絶やさないでほしい」とメッセージをしました。

4日もデボーションから一日が始まりました。派遣礼拝では、朝澤まりこ大尉(軍国青少年部付)が、フィリピ3:1～11より「あなたは何を誇りとして生きる？

イエス様と生きるとは、イエス様とどういう関係にあるということ？」と問いかけ、「イエス様は私たち以上に〈あなたと一緒に生きたい〉と思っておられる。イエス様とあなたをつないでいるものは、生きた愛のある関係。イエス様を信頼して、イエス様と生きよう」と語りました。

メッセージや仲間との交わりを通して、自身の信仰や、学生や社会人としての日常生活の中での生き方について振り返り、考える時を過ごしました。今回は昨年より1泊長い、3泊4日のキャンプでしたが、それぞれがイエス様と生きること、この方によって変えられることを学んだ4日間となりました。(参加者32人)



関東東北連隊

●キッズ・サマー・デイキャンプ

●関東東北連隊ユース・杉並ユース交流会

8月27日(水)、28日(木)にキッズ・サマー・デイ・キャンプをおこないました。一日目は佐野こどもクラブを会場に集会やゲーム、工作、すいか割りなどを楽しみ、二日目は群馬県太田市にある東毛青少年自然の家でピザづくりを体験し、自分たちでつくったピザをみんなでおいしくいただくことができました。今年は二日間のキャンプをおこなうことができました。

昨年に引き続き、杉並小隊のユースを中心に8人の奉仕者が東京から参加し、一日目の夕方からは、関東東北連隊ユース、佐野小隊の戦友方と杉並からの奉仕者との夕食交流会の時をもちました。おいしい夕食を囲み、賛美や自己紹介と、短い時間でしたが連隊を超えて楽しい交わりの時をもつことができました。

時代も変わり、昔のような宿泊のキャンプをすることは難しくなっていますが、必要な費用や奉仕者が備えられ、子どもたちへ福音を伝える機会が引き続き与えられていることを感謝します。今年は日本G&M文化財団の支援金が与えられたことによって、杉並からの奉仕者も二日間参加してもらうことができました。奉仕者を送り出してくださった杉並小隊、また、すべての



①工作の指導をする連隊リーダー ②すいか割り ③こどもクラブでの集会 ④夕食交流会 ⑤⑥ピザづくり

必要を満たしてくださる神様に感謝します。(参加者 一日目84人、夕食交流会30人、二日目84人)

北海道連隊

●ファミリーキャンプ

9月14日(日)～15日(月・祝)、「喜びのための協力者」(テーマ聖句 コリント二1:24)というテーマのもと、ネイパル足寄を会場に開催しました。今年は日本G&M文化財団の支援をいただき、家族での参加を優遇するため、18歳以下の子どもの参加費は無料として開催することができました。

1日目は夕方から会場に集合しました。オープニング・ミーティングでは賛美を献げ、連隊長石坂臣司少佐がキャンプのテーマ聖句から、みんなで協力してすばらしい建物を建てることの大切さを語りました。夕食後のゲームナイトでは、参加者同士の協力によって完成することができるゲームや、チーム対抗ゲームなど、幅広い内容のゲームを大人も子どもも楽しみ、「共に聴く聖書」アプリで聖書の言葉に耳を傾けました。そして、連隊女性部書記の石坂奈緒美少佐が紙芝居を用いながらショートメッセージをし、祈る時を導きました。

2日目のアクティビティでは、参加者の名前カードをくじのように引き、準備する人、ゲームに臨む人を選びながらおこないました。一人で達成するゲームもあれば、連隊長との対抗ゲームもあり、またチームで完成させるゲームなど、盛りだくさんの内容を2～84歳とい



う幅広い世代が楽しみました。最後に帯広小隊の眞鍋和枝少佐がメッセージを語り、眞鍋精一少佐がお祈りしました。一人ひとりがかけがえない存在であり、たとえ特別なものをもっていなくても、私たちの体を良いことのために神様に使っていただく時、周りの人には喜びが与えられ、私たちは喜びのための協力者となれることを学び、体験したひと時でした。(参加者28人)

YP (青少年部)・ファミリーニュース

横浜小隊

●こども広場 夏休みスペシャル

7月30日(水)、10時30分から13時までおこないました。ふだんのこども広場は、オセロや卓球など自由遊びをしていますが、この日はまず礼拝堂で賛美をし、ショートメッセージ(ヨナのお話の紙芝居)をして、短い礼拝の時をもちました。その後、工作をして紙飛行機のような作品を外の公園で飛ばして遊びました。暑かったので外遊びは短い時間だけおこない、小隊に戻ってみんなで昼食の準備をし、一緒にチキンライスを食べました。かき氷もそれぞれ好きな味で作って楽しみました。

初めて教会の礼拝に参加した子もいましたが、お話をよく聞き、歌を楽しそうに歌っている姿がありました。ま

た、この会の後、日曜学校に参加する子どもがあり、主に感謝しました。(子ども3人、奉仕者4人)

●こども広場 ～宿題を一緒にやろう～

8月20日(水)、10時から13時までおこないました。午前中に、45分間の宿題タイムを、休憩をはさんで二回おこない、子どもたちはそれぞれ持ち寄った夏休みの宿題に取り組みました。わからないところを大人がサポートしました。ランチを一緒に食べ、かき氷もして、楽しい時でした。直接的に福音を伝えることはしませんでした。いつの日か子どもたちが救い主イエス様に出会うことができるよう、これからも子どもたちと良い関係を築いていけるようにスタッフ皆で祈りを献げました。(子ども6人、奉仕者5人)



名古屋小隊 ●夏期学校

8月9日(土)、ラーランザウイ候補生を夏期訓練に迎えて、久しぶりに夏期学校をおこないました。午前の礼拝では、ヨナのお話を聞き、お昼はお弁当づくりをしました。午後は、貼り絵工作の後、候補生が楽しいゲームを導きました。おやつを食べた後も、しばらくゲームを楽しみました。



礼拝では、ヨナのお話を聞き、お昼はお弁当づくりをしました。午後は、貼り絵工作の後、候補生が楽しいゲームを導きました。おやつを食べた後も、しばらくゲームを楽しみました。

●YP 夏まつり

8月24日(日)午後、

YP 夏まつりをおこないました。大竹美菜子青少年部曹長が準備した魚釣りや金魚すくいなどのゲームを楽しんだ後、かき氷、クレープ、ワッフル、チーズケーキなどスイーツ盛りだくさんのおやつをいただきました。



社会福祉サンデー 11月9日(日) 救世軍の社会福祉の働きのために祈りましょう

- ・保育園(札幌市しせいかん保育園、菊水上町保育園、桑園保育所、佐野保育園、呉保育所)
- ・児童養護施設(世光寮、機恵子寮、希望館、愛光園、児童家庭支援センター明日葉及び矢野分室、広島県東部・北部里親支援センター明日葉) ・学童保育(佐野こどもクラブ)
- ・女性自立支援施設(婦人寮、新生寮)
- ・高齢者施設(恵泉ホーム、ケアハウスいずみ、恵みの家、グレイス)
- ・救護、支援施設(自省館、男子社会奉仕センター)
- ・街頭生活者支援、社会鍋資金による活動、災害救援活動等

これらの働きを覚え、また法人本部である本営での業務を覚え、お祈りください。

〈ご案内〉 ACWC(アジア教会女性会議) 一日研修会

日時: 11月7日(金)

13時30分～15時30分

会場: 在日大韓基督教会東京教会

主題: 「キリストの癒しの平和を世界に届けよう」

詳細は女性部からのご案内をご確認ください。

NEWS!!
NEWS!!仙台小隊、
浪江小隊

各地のニュース!!

●廣田家集会

双葉町にある浪江小隊・廣田英一書記の自宅が年末に解体される見通しとなり、8月11日（月）、親族が集まってお別れの時をもちました。自宅に立ち入る前後に、双葉駅近くにあるスクリーニング場に集合し、立ち入りの受付と放射能の線量測定がありました。その後、廣田家のお墓の掃除をし、元会社と自宅に伺いました。昼食と家庭集会をし、これからの廣田家御一同の祝福をお祈りしました。仙台小隊の



戦友たちも参加し、慰めに満ちた時となりました。

●召天者合同記念会

9月14日（日）は、仙台小隊・浪江小隊召天者合同記念会でした。聖別会は永尾勉書記の司会で進められ、召天者名簿を司会者が読み上げ、先に天に召された方々を偲びました。松末泰志大尉がヨハネ 11：17～27 よりメッセージをしました。聖別会后、愛餐会をもち、午後は北山霊園で小隊墓前礼拝をおこないました。

すべてのプログラムが守られたことに、神様をほめたたえます。



熊谷小隊

●召天者記念聖別会

9月21日（日）、熊谷小隊では、小隊召天者記念聖別会を守りました。司式の小隊士官補佐田口哲也少佐は「イエスにあって眠った人々」（テサロニケー 4：13～18）と題し、メッセージをしました。

この日、大橋敏子さん（恵の座軍曹、2024年12月27日に召天）のご家族の方々が出席してくださいました。記念愛餐会では、ご家族の皆さんと一緒に大橋敏子さんの思い出を語り合いました。



函館小隊

●小隊会館の移転

函館小隊は、建物の老朽化に伴い、旧会館の向いの旧医院をお借りし、新たな集会所として用いることになりました。10月5日（日）に、旧会館とのお別れの「感謝祈祷会」をおこない、軍旗を持って新会館へ移動し、召天者合同記念会をおこないました。長年親しんだ会館から目の前に新しい集会の場所が与えられ、新たな歩みを始めることができ、祝福を祈ることとなりました。これからも函館小隊の働きが地域にあって豊かに用いられるますよう、どうぞ覚えてくださいますようお願いいたします。

新会館住所
函館市宝来町 23-11
電話番号
011-788-5352
（北海道連隊本部）



11月2日（日）
訪問サンデー

聖句カードや『ときのこえ』を持って友人、知人をお訪ねしたり、電話やメール、手紙を出したりしてみましょう。

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

社会福祉部

●全国社会福祉施設長及
び士官会議

9月2日(火)～4日(木)の3日間、マホロバマインズ三浦(神奈川県三浦市)にて開催しました。「人間福祉と将来～誰かのための救世軍～」(コリントの信徒への手紙 一 13章4～8節)をテーマに、私たちの働きの原点を確認するために、「善いサマリア人」のストーリーの中で私たちがどこに立っているのか、多面的に確認する時となりました。

開会礼拝は軍国女性部書記及び医療部長 西村和江大佐補が「その人の隣人になる」と題して発題し、書記長官 西村保大佐補は「失われたものを捜して救うため」、社会福祉部長 石川一由紀少佐は「人間福祉の原点と将来」と題してそれぞれ基調講演をおこないました。

善いサマリア人に関する事前アンケートや当日の「将来計画と現実に関するアンケート」も実施され、救世軍の社会福祉の原点は小隊活動であり、現在、私たちが担っている働きの立っている土台と将来について、部会別、地域別、またランダムなグループでの討議がおこなわれました。これは、施設長、施設長候補の方及び各施設に任命のある士官が共に活発に話し合う場面となりました。

バイブルリーディングは札幌地区保育園チャプレン 石坂奈緒美少佐が担当し、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐、佐野保育園付 眞鍋嗣道中尉による祈

祷会も、「善いサマリア人」についてそれぞれの立場や経験から導きがありました。

2日目には吉田眞中將による理念の講演と分かち合いの時がもたれました。3日目のグループワーク全体の取りまとめでは、士官や救世軍人ではない施設長が多い中、それぞれの施設が将来を描きながら進んでいくときに、軍国全体の方針の必要性、同じく救世軍の各地域の拠点である小隊士官と施設長が一堂に会して忌憚のない話し合いが必要なことなどが提言されました。また、各地域での士官、救世軍人の存在が施設の方向性や地域社会への働きかけに不可欠である点を確認される時でした。

閉会集会では司令官が「善いサマリア人の同情・神の愛を自分のものとして実践する」と題してメッセージをし、私たち救世軍の原点と活動理念、今後について示される時となりました。

(施設長、士官、主催者側合計参加者34人)



八幡小隊

●開戦110周年記念集会

八幡小隊は今年、110周年を迎えました。10年前、2015年に100周年の記念集会をおこない、『百周年記念誌 恵みのはじまり』が発行されました。今年は、小隊のホームページを開設し、小隊の礼拝に出られない方にもホームページからもYouTubeにアクセスし、毎週の聖別会のメッセージを視聴できるようになりました。また、過去に出された記念誌や証し集なども内部関係者には見ることができるページ(パスワードを入れることにより開く)をつくりました。これは、110年の歴史を支えてきた戦友方の子供もや孫にあたる方にも、祖父母や関わりのあった方々の証言を読んでいただき、その思いや信仰に触れて、信仰を継承するきっかけとなるように、との願いと祈りによるものです。

8月10日(日)には、110周年記念聖別会をもちました。あいにく朝から大雨の日でしたが、大阪からも八幡出身の関係者が集いました。100周年以降の10年間で写真のスライドショーで振り返る時をもち、またこの

期間の前任士官の方々から届いたメッセージが紹介されました。有志によるトーンチャイムの演奏には、戦友の孫の小学生もタンバリンと鈴で参加しました。樋口和光少佐は、「平和を実現する人々」と題して、メッセージを語りました。これからの新しい歩みにも、変わらない神の祝福とお導きを祈る時を一同でもちました。



11月30日は社会鍋の日

(社会鍋実施の詳細は社会福祉部より)

〈連載・第35回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

聖礼典について

解説

委員会の諮問を終えるにあたり、^{せいさん}聖餐式と洗礼式に関する声明を策定しました。どちらの表現も満場一致で採択されたものです。同時に、聖餐式に関する声明では、その論理的な根拠となる理論について提示しました。これらの論拠はこの問題についてさらに深く吟味し熟考するための糸口にすぎません。ここで述べることはさらに適宜改訂されていく必要があります。

参考までに申し上げるなら、委員会が明確な定義として10の項目に到達するまでには、各委員は（個人でも全体でも）多くの祈りを献げ、大勢の人から寄せられた手紙を読み、共に聖書を学び、他教会の意見をありがたく聞き、各自が個々に考える中で、次第に10の問いが与えられました。その10の問いは以下のとおりです。委員たちはその答えをもち寄り、分かち合い、その根拠を説明しました。各委員とも、もともと議論に^{なが}けているか否かにかかわらず、全員が自分の論点とそこから導き出した結論を述べました。

1. あなたは神の恵みが特別な儀式、儀礼によらないと信じますか。
2. あなたは聖餐式が（何らかの形で）救世軍に導入されるべきだと考えますか。
3. その導入は現実的だと考えますか。
4. あなたは、救世軍で聖餐式をおこなわなければ、主イエス・キリストの言葉に^{うら}背いていると考えますか。
5. あなたは、水による^{バプテスマ}洗礼を救世軍で導入すべきだと考えますか。
6. その導入は現実的だと考えますか。（支障となると思われる点について、またその解決策について述べてください。）
7. 救世軍人は聖霊の内住によってキリストの洗礼を受けると認識しています。あなたはこのことを入隊式の文言に含めるべきだと考えますか。（水は使用しない。）
8. あなたは会食形式での礼拝を実践する余地があると考えますか。
9. あなたは愛餐会を再強調したいと思いますか。
10. 導入したなら、会食または愛餐会には特定の（儀式的な）文言を含めるべきだと考えますか。

ここで、さらに述べておきたいことは、聖餐式に関する声明によって注意したいのは、専門用語（「愛餐会」など）は会派や文化によって変化することであり、必ずしも互換性はないということです。ショー・クリフトン大佐（当時）が後述の論文でいくつかの問題点を^あ挙げて疑問を提起しているように、この件について議論するのは

大変複雑なことです。これは、さきに述べた「キリストの臨在を祝うことへの呼びかけ」の章（2828号～2835号）と深く関わっています。

洗礼に関する声明においては、委員会として「聖霊によってキリストの体となる洗礼に^{あずか}ったことを公に証しするためには多くの有効な方法がある」と認識しています。また、水によって洗礼をおこなう教会もその一つであるという考えです。

教会の一員となるための資格を得る儀式として、水による洗礼を用いている会派について、救世軍は何ら異議をはさむものではありません。「One Faith One Church（ひとつの信仰ひとつの教会）」（世界教会協議会「信仰と職制」文書No.111に対する救世軍の回答）において、「霊的に深い理解をもって聖礼典としての水による洗礼をおこなうクリスチャンについては、救世軍人は霊的に真の共同体とみなします」と述べています。

しかしながら、水による洗礼は、救世軍では一切おこなわれてきませんでした。洗礼に関する救世軍の立場は、クリスチャンとして区別される唯一の明確な洗礼は聖霊による洗礼である、という信仰の上に成り立っています（コリントー12・13、エフェソ4・5）。これは他の宗教では見られない特徴です。キリスト独自のものです。ヨルダン川の岸でヨハネが宣言したように、「わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方（イエス）は聖霊で洗礼をお授けになる」（マルコ1・8）のです。イエスが昇天の前に弟子たちに言われた言葉には、イエスが何を優先していたかが表れています。「ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられる」（使徒1・5）ということです。委員会は一致してこの強調点を再確認し、洗礼の声明でこれを追認しました。

ただ、委員会では、ある地域においては救世軍が聖餐式や洗礼の聖礼典をおこなわないことに対して理解が得られていない、という現実も認めました。救世軍の立場に対する理解が欠如していることは、救世軍の成長や影響力の妨げとなっています。妨げとなっている具体例は次のようなものです。

- ・回心者が他の教会へ行ってしまう。
- ・キリストの体の一部として同等に属しているはずなのに、差別を受ける。
- ・救世軍は「儀礼」を否定しているのではなく「儀礼主義」でないだけであることを、たびたび説明しなければならない。
- ・理性よりも心で、地域の人と同じように考え、生活し、行動や働き、礼拝をおこなっている。
- ・キリスト教自体が少数派となっている地域では、少数派のうちのさらに少数派だとみなされる。

以上のことやその他、いろいろと委員会では協議されましたが、圧倒的多数で、水による洗礼の導入は奨励しないことに決めました。それを導入しても、すでに経験しているクリスチャンとしての有効性には何かを加えるわけでもなく、聖霊による洗礼の大切さを減じることになりかねないからです。（続く）

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第18回「救世軍と国家」(2)

救世軍の立場の土台となるもの

(承前) 救世軍の国家との関係は、聖書の原則に基づいています。聖書の原則には次のようなものが含まれます。

- * 神は地球の創造主です(イザヤ40:28)。
- * 国家とその指導者たちは、国民を理解し、あらゆる被造物と共に、神とその教えに従って、賢く行動する責任があります(詩編2:10)。
- * 神は正義と慈しみと謙遜を求められます(ミカ6:8)。
- * クリスマスは、国家の安寧を促進するために、積極的に影響を与える機会を得ようと努めるべきではありますが(エレミヤ29:7)、その責務は、クリスマスの神に対する最初の忠誠(出エジプト5:1、使徒4:18~31)を第一とすると、それは第二のものとなります。

実際の対応

1. 救世軍は、その教理、そのアプローチの仕方、その評判によって、貧困の中に暮らす人々や、周辺に追いやられている人々と共に働くようにと召されています。その結果として、救世軍は、国家やその機関が社会の正義と公正を促進する働きを進める時に、共に働く機会を求めています。
2. 救世軍は、国家とその機関が、差別することなく、人々の益になる、人道主義的で社会的な働きをする時に、共に働きます。
3. 救世軍は、政治面での指導、政府での指導の重責を負っている人々に、牧会ケアをおこない、国家で権威ある立場をもっている人々と豊かな関係を築くよう努めます。
4. 救世軍は、国家や、その機関、国際連合のような国際的な団体に対して、積極的に影響を与えることができるよう努めます。このようなすべての関係のゴールは、聖書の価値観を高めていくことなのです。

(2011年3月大将によって承認)

第19回「権力の行使」(1)

権力の行使についての見解表明

救世軍は、権力そのものは善でも悪でもないと思っています。むしろ、権力がどのようなものであるかを決めるのは、それが用いられる目的、どんなやり方でそれが用いられるか、にかかっているのです。

キリストの教会として救世軍は、全能の神は常にその御力を正しい目的のために行使されると信じています。

このことから、救世軍は、権力、それが経済的、感情

的、法的、身体的、政治的、心理的、宗教的、社会的なものであっても、常に神の国の価値、つまり、愛、公正、お互いを尊重すること、などを高めるために用いられるべきであると信じているのです。権力をごまかしや搾取のために用いてはならないのです。

救世軍は、人を虐げ、苦しめ、墮落させ、人権を否定するために、権力を用いることに反対します。

見解表明の背景と状況

権力とは、他の人々に命令し、支配し、思いのままに動かす力のことです。しばしば権力などもっていない、権力など重要ではない、と否定され、無視され、最小に評価されますが、すべての個人、機関、事業、国家は権力をもっているのです。権力をもっている者たちが、世の中の良いものを自分の手に入れ、また、恐ろしく邪悪なものを自分のものとするのです。それゆえに、権力を正しく用いることを知り、権力の乱用の可能性があることを知ることが大切です。

救世軍の立場の土台となるもの

神が人に権利と責任をお与えになった、とクリスマスは理解しています。力を与えられた人がそれを行使できないとしたら、意味がありません。このことは、国家、法人、宗教団体、個人についても言えることです。しかし、絶対的な力を得たいと願うことは、罪のしるしです(マタイ20:20~28、マルコ9:33~37)。この願望は、神から独立し、他の人々を支配したいという、私たちの心の奥底にある罪深い願望です。このことの背後には、自分がすべてを支配してはじめて満足できるという、間違った考えがあるのです。私たちが僕の心をもつには、権力や野望を求める欲を捨てるべきである、と聖書は教えています(ヨハネ13:1~20、フィリピ2:5~11)。また、本当の幸福は、自分の考えを神の考えと一つにすることにある(ペトロ4:2、ヨハネ2:17)と聖書は教えているのです。

権力の行使についての救世軍の理解は、すべてのものの統治者であり、すべてのものの僕である(フィリピ2:6~11)イエスが定めてくださったものです。

イエスの模範とともに、権力の運用について明瞭に示している聖書箇所があります。

- * 権力は神から与えられたものであり、それをどのように用いるかは私たちの責任です(ヨハネ19:10~11)。
- * 権力を運用する時に、私たちに困っている人々の益となるように働き、権力の乱用に立ち向かう責任があります(箴言31:8~9、イザヤ1:17、エレミヤ22:3)。
- * 権力を用いる時には、愛の心でおこない(エフェソ6:4)、他の人々を力づけるためにすべきです(エフェソ4:11~12)。
- * 全体の益のために託されている権力は、全体の益のために用いるべきです(列王記上3:9、コリント12:7)。

(続く)





佐々木トセ少佐 天に召さる

佐々木トセ少佐は、2025 年 8 月 10 日、敗血症ショックのため、入院先の高崎市日高病院より召天されました。89 歳でした。

佐々木トセ少佐は 1956 (昭和 31) 年 10 月鶴橋小隊より士官学校『忠実なる者』の学年へ入校されました。翌年 6 月に少尉に任ぜられ、西新井小隊付として遣わされました。その後、浜松小隊付、清水小隊付、沼津開戦小隊長、月島小隊長、浜松小隊長を歴任。1964 年、佐々木昭夫大尉と結婚。それ以後、夫君と共に、長野小隊、浪江小隊、浜松小隊、名古屋小隊、仙台小隊、郡山小隊、若松小隊、八幡小隊、門司小隊、福岡小隊、広島小隊、熊本小隊、大牟田小隊、泉尾小隊で歴戦。1984 年からは、九州連隊家庭団書記、中国九州連隊家庭団書記、関西四国連隊家庭団書記として連隊での任も担い、その間、鶴橋小隊、神戸小隊での兼任もされました。1996 年 7 月に渋谷小隊付。翌年 6 月には、士官永年勤続章 40 年章を授与されました。1999 年 8 月に現役を引退。引退後も渋谷小隊で継続奉仕され、その後も、岡山小隊付、福岡小隊付 (臨時)、大牟田小隊付 (兼・臨時)、そして 2002 年から 1 年間、恵泉ホームで (週 2 日) ご奉仕されました。その士官生涯のほとんどを小隊・連隊で過ごし、各地で忠実に伝道・牧会の働きに心を尽くされました。

今年の 4 月より清瀬小隊から前橋小隊に転籍され、高崎市内在住のご次男家族の近所の老人ホームで暮らし始めたばかりでした。

告別式は 8 月 15 日、前橋小隊にて、小隊士官田口哲也少佐司式でおこないました。御遺族の上に神様の御慰めをお祈りいたします。



杉本勝義会計 天に召さる

西新井小隊の杉本勝義会計は、2025 年 8 月 6 日、ご自宅より天に召されました。81 歳でした。

杉本勝義会計は、若き日に信仰をもち、それ以降、早苗夫人と共に、長年にわたり忠実な下士官として西新井小隊を支えてこられました。定年退職後は、男子社会奉仕センターと新光館の職員としてご奉仕されました。昨年の 11 月末まで、これまでどおり聖別会の司会など小隊でのご奉仕を続けておられましたが、12 月初旬に病が判明。それからご家族の献身的な看護で、ご自宅にて療養を続けておられましたが、8 月 6 日午前 9 時 48 分、ご家族の見守る中、天に凱旋されました。

告別式は、8 月 10 日、西新井小隊にて、小隊士官三澤良子少佐司式で、ご遺族の意向により家族葬として、ご遺族、ご親戚、西新井小隊関係者のみで執りおこなわれました。

御遺族の皆様の上に神様の御慰めをお祈りいたします。(小隊報)



救世軍公報
新施設長
老人保健施設グレイス施設長
水上信智
二〇二五年十月一日付
司令官
ステイブン・モーリス

NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

ジャパン・スタッフ・バンド (JSB)

●名古屋遠征

9 月 13 日 (土) ~ 14 日 (日)、ジャパン・スタッフ・バンド (JSB) アンサンブルメンバーは名古屋小隊と日本基督教団東海教会を訪問しました。

13 日 (土) の午後、名古屋小隊でコンサート。JSB バンドリーダー石川一由紀少佐の司会で進められ、日頃、小隊に協力してくださっている市民金管バンドのメンバーや、名古屋小隊のタンバリン隊もコンサートに加わりました。翌 14 日 (日)、東海教会の主日礼拝に参加し、JSB は演奏と賛美伴奏の奉仕をしました。教会員の皆様はブラスバンドの伴奏で賛美歌を歌うのは初めてと話され、最初は緊張しつつも、大きな声で楽しそうに歌ってくださいました。名古屋小隊聖別会には石川一由紀少佐が出陣し、「苦しみも共に喜びも共に」(コリントー 12: 18 ~ 27) と題してメッセージをしました。

午後は東海教会でコンサート。名古屋小隊の戦友も合流し、石川一由紀少佐の司式でおこなわれました。多くの新来者が訪れ、教会のホールは満席となりました。前日に引き続き、名古屋小隊タンバリン隊が奉仕し、初めて見るタンバリン操練に大きな拍手が沸き起こりました。

東海教会は今年 3 月に創立 100 周年を迎えられ、今回の訪問は記念行事の一環として招いてくださったものですが、地域における伝道、そして新会堂建築に向けたキックオフの時として、貴重な機会となったとのこと。 (13 日ーコンサート 49 人うち新来者 13 人、14 日ー主



東海教会の和田芳子牧師と JSB

日礼拝 28 人、
聖別会 21 人
うち zoom 出席者 2 人、
コンサート 64 人うち新来者 18 人)



14 日 東海教会でのコンサート



13 日 名古屋小隊でのコンサートで

リンドン・バッキンガム大将 及び
ブロンウィン・バッキンガム中將 指揮

全国大会 2025 年 11 月 21 日～23 日

テーマ「新しい地平線へ」

見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。
あなたたちはそれを悟らないのか。わたしは荒れ野に道を敷き
砂漠に大河を流れさせる。(イザヤ 43:19)



- 11/21 (金) 全国士官会 山室軍平記念ホール
11/22 (土) 午後 2 時
バンドレイジング・チャリティー・コンサート
(一般公開・事前申込み制) 東京・中央区立日本橋公会堂
11/23 (日・祝)
午前 10 時 大会聖別会 (一般公開)
午後 12 時 30 分 大会昼食会 (申込み制)
聖別会及び昼食会会場 日本教育会館 9 階 喜山倶楽部
午後 3 時 大会賛美集会 (救世軍限定公開)
賛美ゲスト・長沢崇史牧師、メッセージ・大将
山室軍平記念ホール
午後 6 時 ユース・ディナー・パーティー
(申込み制) 山室軍平記念ホール

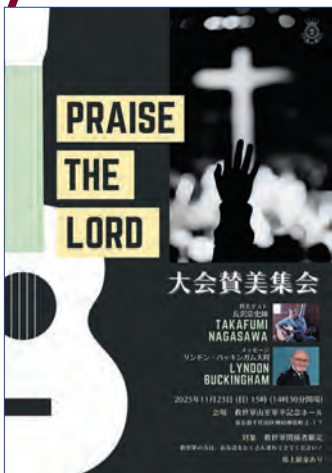
いよいよ目前です。神様からの大きな恵みを
期待し、お集いください！
大会聖別会、大会賛美集会の申込みは不要
です。コンサート、昼食会、ユース・ディ
ナー・パーティーへの申込みはお忘れなく！

◇大会聖別会のみライブ配信が
あります。
(救世軍 YouTube チャ
ンネルにて)



◇大会プロモーションと
祈りの呼びかけ動画

救世軍 Youtube チャンネ
ルに全国大会のプロモー
ションと祈りの呼びかけの
動画が公開されています。
ぜひご視聴くだ
さい！



◇全国大会祈祷会 11/14 (金) 13:30
〈会場〉山室軍平カレッジ (YGC)
対面またはオンライン参加



オンライン参加は
左の QR コードか
らどうぞ

発行日及び定価
▼発行日
福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行
▼定価
福音版・一部 四〇円
広報版・一部 一〇〇円
クリスマス特集号 十二月一日号
振替 〇〇一八〇一五四四〇〇
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブン・モリス
編集人 山谷 真
〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町二ノ七
電話 東京(03)三三七〇八八一
発行所 救世軍本営
印刷所 有限会社コーチ印刷

(取扱支部)